

科目名 (英)	美容保健 III Health for Beauty III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大須賀範子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	木曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
学位を取得している担当教員は、母校では6年間、美容専門学校では2013年から、講義を担当。教科書の内容をより理解できるようにアクティブ ラーニングを取り入れている。美容保健を学ぶことにより人体の各名称や特徴などを理解することは、他の分野で生かすことができる。また、将来美容師としての知識の信頼につながり、技術の習得や向上に役立てることができ有能な美容師としての活躍の場を広げることができる。							
【授業を通じての最終目標】							
国家試験に合格し、国家資格保持者として自己管理に応用するほか 第三者に説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書(保健)-日本理容美容教育センター発行							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	第1章 皮膚の構造 (皮膚の表面 皮膚の断面 表皮について)						
2	第1章 皮膚の構造 (表皮と真皮の境 真皮の構造 皮下組織 皮膚の部位差について) 小テスト						小テスト 2点
3	第2章 皮膚と皮膚付属器官の構造(毛のあらましとその特徴について) 小テスト						小テスト 2点
4	第2章 皮膚と皮膚付属器官の構造 (脂腺 汗腺 爪について) 小テスト						小テスト 2点
5	第2章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 (対外保護、体温調節 分泌排泄 吸収 再生などについて) 小テスト						小テスト 2点
6	第3章皮膚の血管とリンパ管 第1章から第4章の総復習 小テスト 練習問題						小テスト 2点
7	中間テスト						20点
8	第4章 皮膚と皮膚付属器官の保健 (全身状態 精神 栄養 水分 脂などとの関係について 毛、爪の手入れ)						
9	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (皮膚の異常について 接触皮膚炎) 小テスト						小テスト 2点
10	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (脂漏性皮膚炎 蕁麻疹 アトピー性皮膚炎 熱傷など) 小テスト						小テスト 2点
11	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (角化異常 色素異常 分泌異常について) 小テスト						小テスト 2点
12	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (化膿菌 ウイルス 真菌 衛生害虫 脱毛症などについて) 小テスト						小テスト 2点
13	第1章 から第6章まで総復習 小テスト 練習問題						小テスト 2点
14	第1章 から第6章まで総復習 練習問題						
15	定期試験						60点
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	化粧品化学 I Physics and Chemistry for Beauty	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川名 修
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	火曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
民間企業で材料開発に携わり、化粧品にも精通した講師が講義を担当する。目的:美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目的を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。							
【授業を通じての到達目標】							
この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に用いられるのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという絶対的な命題のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を強く意識して授業に取り組んでいただきたい。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
化粧品化学(日本理美容教育センター)				随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自立的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	導入、物質の構成・化学式(教科書付録2~4ページ)						
2	原子の構造・イオンの生成原理・化学結合(教科書付録8ページなど)					4点	
3	溶解・溶解度曲線・コロイドの種類(教科書付録4~7ページ)						
4	酸と塩基、水素イオン指数、強酸・弱酸など(教科書付録(8~12ページ))					4点	
5	酸化と還元、パーマの原理(教科書付録15~16ページ)						
6	有機化合物(教科書付録17~20ページ)						
7	中間テスト					20点	
8	化粧品概論、化粧品の定義、医薬部外品(教科書9~30ページ)						
9	化粧品原料(水性原料・油性原料)、皮膚・毛髪・口唇・まぶた(教科書31~49ページ)					4点	
10	界面活性剤の種類と働き(教科書50~62ページ)						
11	色材の種類とそれらの性質(教科書63~68ページ)					4点	
12	その他の配合成分(教科書74~81ページ)						
13	高分子化合物、香料、特殊成分(教科書69~73、82~84ページ)					4点	
14	期末テスト					60点	
15	期末試験の振り返り、総合演習						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	文化論 I Cultural Theory I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢幸子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	火曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格認定を受けた教員が、美容文化論の講義をする。理容業、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知り、これからの時代のデザインを起すヒントを得る。文化論は美容師国家試験科目であり意欲をもって取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
理容美容、および理容業、美容業の成り立ちを知る。日本のファッション文化史を縄文時代から2000年以降まで修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書 シラバス プリント							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	第1章総論 第2章日本の理容業・美容業の歴史 1・2節						1
2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史 3・4節						1
3	第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代						1
4	第3章 第2節 古代 (飛鳥・奈良・平安)						1
5	第3章 第3節 中世(平安末・鎌倉・室町・戦国)						1
6	第3章 第4節 近世Ⅰ(戦国末・安土桃山)						1
7	中間テスト 第1章～第3章4節までの範囲から出題						20
8	第3章 第5節 近世Ⅱ(江戸時代髪型)						2
9	第3章 第5節 近世Ⅱ(江戸時代 化粧・服装)						2
10	第3章 第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの髪型)						2
11	第3章第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの化粧・服装)						2
12	第3章 第7節 現代Ⅰ(1945～1950) 8節 現代Ⅱ(2000年以降)						2
13	第3章 第9節現代Ⅲ(1980～1990)第10節現代Ⅳ(2000年以降)						2
14	定期試験 第1章～第3章より出題						60
15	第1章～第3章まで 振り返り						2
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ-① Technological theory Ⅲ-①	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	市川 てるみ
学科・コース	美容師科通信課程	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	木曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師としてサロンワーク、スタジオワーク、コンテストの経験を経て、現在もフリーのヘアメイク、美容師として活動する教員が美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の現状を伝えながら美容技術についての知識を深めていく。							
【授業を通じての到達目標】							
美容技術理論Ⅱにおける各分野を理解できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論Ⅱの教科書、筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	12章 着付け目的と各部名称						
2	12章 着付けの一般要領、基本ルール						
3	12章 着付け技術と注意事項。花嫁。						
4	11章 日本髪由来、名称						
5	11章 日本髪の道具、技術						
6	10章 メイクアップ、道具、ベースメイクアップ						
7	10章 各部メイクアップ、まつ毛エクステ						
8	中間テスト(メイク、日本髪、着付け)					中間テスト 20点	
9	10章 メイクアップ、道具、ベースメイクアップ						
10	9章 ネイル技術概論						
11	9章 ネイル 爪の構造						
12	9章 ネイル技術、マッサージ						
13	8章 エステティック概論、小テスト(8~12章)					小テスト 10点	
14	確認問題、小テスト(8~12章)					小テスト 10点	
15	定期試験(8~12章)					定期試験 60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ－② Technological theoryⅢ－②	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	柴野 宏司
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容専門学校専任講師16年の経験を有する担当教員が、国家試験過去問の選択肢一つ一つを抽出、解説することにより出題傾向を理解し、正解率を向上させる。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験合格に必要な美容技術理論の知識を身に付ける							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論1							
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 授業オリエンテーション、美容技術の作業姿勢 【到達目標】 教科書1序章からの出題過去問の正解を選択することができる			9	【授業単元】 ヘアカラーリング 【到達目標】 ヘアカラーリングに関する過去問の正解を選択することができる		
2	【授業単元】 美容用具の種類と手入れ法 【到達目標】 美容用具に関する過去問の正解を選択することができる			10	【授業単元】 エステティック 【到達目標】 エステティックに関する過去問の正解を選択することができる		
3	【授業単元】 シャンプーイングの実際とシャンプー剤の成分 【到達目標】 シャンプーイングに関する過去問の正解を選択することができる			11	【授業単元】 ネイル技術 【到達目標】 ネイル技術に関する過去問の正解を選択することができる		
4	【授業単元】 リンス・コンディショナー・トリートメント剤の成分 【到達目標】 リンス・コンディショナー・トリートメントに関する過去問の正解を選択 できる			12	【授業単元】 メイクアップ 【到達目標】 メイクアップに関する過去問の正解を選択することができる		
5	【授業単元】 ヘアカットイングの基礎理論、カット技法 【到達目標】 ヘアカットイングに関する過去問の正解を選択することができる			13	【授業単元】 日本髪と着付け 【到達目標】 日本髪と着付けに関する過去問の正解を選択することができる		
6	【授業単元】 パーマ剤の分類とパーマメントウェーブ技術 【到達目標】 パーマメントウェーブに関する過去問の正解を選択することができる			14	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 正解率60%以上		
7	【授業単元】 中間試験 【到達目標】 正答率60%以上			15	【授業単元】 定期試験の振り返りと分析 【到達目標】 今までの学びを振り返り、理解を深める。		
8	【授業単元】 ヘアセッティング 【到達目標】 ヘアセッティングに関する過去問の正解を選択できる			【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
【特記事項】				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習Ⅲ(ワインディング) Beauty Practice Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張・井坂
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	火・水曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンワーク プライダル 撮影の仕事を経験し基礎技術の重要性を知る。 間違いない基礎技術をゆっくり丁寧に学びワインディングの技術を向上させる。							
国家試験に向けて全頭20分で正確に仕上げられるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	正確な巻き方を確認する。全頭23分で仕上げる						
2	ブロッキング強化、配列の復習と確認。全頭23分で仕上げる						
3	巻き方の間違いを治す。全頭22分で仕上げる						
4	姿勢と巻き方を意識する。全頭22分で仕上げる						
5	上巻きの強化。全頭21分で仕上げる						
6	下巻きの強化。全頭21分で仕上げる						
7	中間テスト全頭20分で正確に仕上げる						20点
8	国家試験の採点を覚える。全頭20分で仕上げる						
9	ブロッキングとセンターの強化。全頭20分で仕上げる						
10	フロント～右面の強化。全頭20分で仕上げる						
11	左面の強化。全頭20分で仕上げる						
12	姿勢の見直し。全頭20分で仕上げる						
13	配列を綺麗にしていく。全頭20分で仕上げる						
14	国家試験衛生の強化。定期テスト全頭20分で仕上げる						60点
15	巻き方を確認修正。全頭20分で仕上げる						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容実習Ⅱ オールウェーブ Beauty Practice Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢・田丸
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	水・金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験課題を長きに渡り指導する中で合格に導くノウハウを蓄積した教員が、実技第二課題であるオールウェーブセッティング技術を合格レベルに到達させるための授業を行う。美容師への第一歩となる資格試験合格向け道具の準備や扱い方、7段ウェーブの構成を覚えヘアセットの理論と高い技術を習得する。							
【授業を通じての到達目標】							
オールウェーブセッティングの全員合格を目指す。1段ずつの作り方を正確に覚え国家試験タイムと同じ25分で仕上げられるようになる。ウェーブ7段と左右中央のバランスを覚え、正確なカールを正しい位置に作れるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	1年次の復習と振り返り						
2	4段目リフトカールの復習						1
3	5段目リフトカールの復習						1
4	6段目メイポールカールを覚える						1
5	7段目クロッキノールカールを覚える						1
6	ウェーブ7段の構成見直し						1
7	中間テスト 全頭33分						中間テスト 20
8	コームの使い方、姿勢、立ち位置の見直し						2
9	ウェーブ7段の縦幅をそろえる						2
10	リフトカールのステムとシェーブ・ピニングの確認						2
11	ウェーブとリッジの割れ、重なりをなくす						2
12	左右、中央エリアと分け取り線の整え方を知る						2
13	全頭のタイムアップ						2
14	定期試験 全頭25分						定期試験 60
15	自己の課題を見つけて指導を受け練習する						振り返り 3
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容実習 国試CUT Beauty Practice	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野・赤羽・鷺尾・山下
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	水・金曜日、1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目の受験に関する実務経験10年以上の教員が担当。 国家試験第一課題の合格基準作品を作るために、国家試験課題スタイルと審査基準を理解し、それを作成するための方法とカットする上で必要な体勢などの基本動作を習得できるようになる。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	授業の内容説明および作業準備、作業手順の導入①						
2	作業手順の導入②						
3	作業手順の導入③						
4	手順全体の復習						
5	フロントCUTまでの手順をスムーズに						1点+(ノート10点)
6	バックのアウトラインまでを正確に早く						1点
7	5, 6回目の復習とスピードアップ						中間20点
8	第3.2.1ブロックのカット手順復習とタイムアップ						
9	8回目の復習とスピードアップ						
10	全行程通して27分でカットする						2点
11	全行程通して25分でカットする						2点
12	全行程通して22分でカットする						2点
13	全行程通して20分でカットする						2点
14	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする						定期60点
15	採点項目の確認。チェックカットの導入						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習 国試総合技術 Beauty Practice	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野・山下・赤羽
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	火・木曜日、1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目の受験に関する実務経験10年以上の教員が担当。 国家試験第二課題の合格基準作品を作るために、国家試験課題スタイルと審査基準を理解し、それを作成するための方法や必要な体勢などの基本動作を習得できるようにする。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。主にタイムアップ、採点項目の強化にあてる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	授業の内容説明、WD技術のタイムアップ23～22分						1点
2	WD技術のタイムアップ23分～22分						1点
3	WD技術のタイムアップ22～21分						1点
4	WD技術のタイムアップ22分～21分						1点
5	WD技術のタイムアップ21～20分						1点
6	WD技術のタイムアップ21～20分						1点
7	WD技術全頭20分での仕上げ確認						中間20点
8	WD前回の振り返り、採点項目確認						1点
9	WDタイム内で採点項目の一部に特化した練習①						1点
10	WDタイム内で採点項目の一部に特化した練習②						1点
11	WDタイム内で採点項目の一部に特化した練習③						2点
12	WDタイム内で採点項目の一部に特化した練習④						2点
13	WD衛星項目も確認する						2点
14	WD技術全頭20分での仕上げ確認						定期60点
15	総合確認テストの振り返り						5点
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅲ Professional seminarⅢ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	岩本・神谷・佐藤・尾崎・野村・大迫
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることができる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 社会貢献していくためのマナーを学び、それらを就職活動に生かすことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				地域清掃を行い、街の環境美化に対する気配り心配りを養う。			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	就職活動ルール再確認、内定用写真撮影						
2	就職活動履歴書作成・スタイルブック作成						
3	就職活動履歴書作成・スタイルブック作成(1組清掃月間)						
4	国家試験筆記問題【美容技術理論】就職活動履歴書作成・スタイルブック作成(1組清掃月間)						小テスト10点
5	就職活動履歴書作成・スタイルブック作成(2組清掃月間)						
6	面接練習、サロン研究(2組清掃月間)						
7	ベルリン【クラス内でのチームワーク力を養う】						中間試験20点
8	ベルリン【クラス内でのチームワーク力を養う】						
9	卒業式準備(3組清掃月間)						
10	卒業式準備(3組清掃月間)						
11	国家試験筆記問題【美容技術理論】						小テスト10点
12	就職活動履歴書作成、面接練習、スタイルブック作成(3組清掃月間)						
13	卒業式準備(4組清掃月間)						
14	国家試験筆記問題						定期試験60点
15	国家試験筆記問題(4組清掃月間)						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術 III Beuty Politekhнизм III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者 美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 デッサン・カラーリング・サイドシャンプー							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	デッサン 道具の説明、使い方を知る						
2	デッサン ヘアデッサンベーシック						
3	デッサン ヘアデッサンベーシック②					1	
4	デッサン ヘアデッサン ベーシック③					2	
5	デッサン ヘアデッサン応用					30点	
6	色彩学を学ぶ						
7	ユニコーンカラー						
8	オーロラカラー					1	
9	インナーカラー					2	
10	レインボーカラー					30点	
11	サイドシャンプー 手順の基礎を学ぶ						
12	サイドシャンプー 実際に相モデルになり施術					1	
13	サイドシャンプー 実践 タイム30分					1	
14	サイドシャンプー 実践 タイム20分					2	
15	サイドシャンプー 実践 タイム15分					30点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ Beauty PoliteknizmⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 メイク・まつ毛エクステンション・ヘアアレンジ							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	メイク 道具の説明、使い方を知る						
2	メイク ベースメイク						
3	メイク アイメイク					1	
4	メイク クリエイティブアイメイク					2	
5	メイク クリエイティブアイメイク 応用					30点	
6	まつエク 道具、手順確認						
7	まつエク ウィッグを使ったデモ、実践						
8	まつエク ウィッグ実践					1	
9	まつエク ウィッグ実践					2	
10	まつエク ウィッグ実践					30点	
11	ヘアアレンジ 手順の基礎を学ぶ						
12	ヘアアレンジ アイロンを使用したアレンジ					1	
13	ヘアアレンジ ハーフアップ					1	
14	ヘアアレンジ フルアップ					2	
15	ヘアアレンジ 応用					30点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術 III Beuty Politekhнизм III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山下 洋子
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者 美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 国家試験課題強化授業							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	ブロッキング センター5分30秒 毛幅 シェーブ確認						
2	ブロッキング 右バックサイド7分30秒					5	
3	ブロッキング 左バックサイド6分30秒 配列確認						
4	ブロッキング 左右対称つながり ロットの方向性					5	
5	オールウェーブ 1段目~左右ウェーブ						
6	4段目 5段目 リフトカール					5	
7	メイポールカール						
8	クロッキノールカール					5	
9	ブロッキング見直し						
10	シェーブ確認 ステム確認					5	
11	バックサイドつながり ゴムのかけ方					5	
12	全頭タイム20分					60	
13	ウェーブ リッジの強化					5	
14	カールの強化					5	
15	全頭タイム25分					60	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術 III Beauty Politekhнизм III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 サロンワーク							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	オリエンテーション						
2	カウンセリング+バックシャンプー						
3	カウンセリング+サイドシャンプー					1	
4	カット(ウィッグ) ベーシックスタイル					2	
5	カット(ウィッグ) ショートスタイル						
6	カット(モデル) フリースタイル					30	
7	カラー(ウィッグ) ワンカラー						
8	カラー(ウィッグ) ウィービング					1	
9	カラー(ウィッグ) ブリーチ&カラー					2	
10	カラー(モデル) フリースタイル					30	
11	アップ(ウィッグ)						
12	アップ(モデル)					1	
13	トータルワーク(モデル) カット、カラー、スタイリング					1	
14	模擬試験					2	
15	本試験					30	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	衛生管理Ⅲ Hygiene Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	柴野 宏司
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	木曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師として国家試験上もサロン就職後も必要となる衛生管理の知識及び技術を修得するために、厚生労働大臣認定の美容専門学校における「衛生管理」の教員資格を有し、該当教科9年の教育経験を持つ講師がアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師法施行規則に規定される美容所における消毒法を列挙し、その効用の違いを説明することができるようになり、また、感染症の要因とその予防対策を挙げることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
衛生管理							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	感染症の起こる要因を理解する。消毒の原理を理解する。						
2	消毒に関係のある美容師法関係法規を挙げることができる。 消毒に関係のある美容師法関係法規を挙げることができる。 化学的消毒方法の種類と使用法を述べることができる。						
3	理学的消毒法に必要な条件を述べる。科学的消毒法に必要な条件を述べる。各消毒法に影響を与える要因を分類することができる。						
4	紫外線消毒の用途と殺菌効果を説明できる。 熱消毒の用途と殺菌効果を説明できる。 エタノール消毒の用途と殺菌効果を説明できる。						
5	次亜塩素酸ナトリウム消毒の用途と殺菌効果を説明できる。 界面活性剤消毒の用途と殺菌効果を説明できる。						
6	消毒の手順を述べる。器具の材質、形状ごとに適した消毒方法を選択できる。						
7	【中間テスト】 正答率60%以上						
8	目的ごとの分類の違いを説明できる。微生物の特徴の違いを述べる。						
9	微生物の種類ごとの特徴の違いを述べる。						
10	感染症発症の要因を説明できる。免疫と予防接種の仕組みを説明できる。						
11	感染源を分類できる。感染経路を分類できる。感染症の予防対策を分類できる。						
12	空気、飛沫感染する感染症の特徴を比較して説明できる。						
13	血液を介して感染する感染症を比較して説明できる。 物・節足動物を介して感染する感染症を比較して説明できる。						
14	【定期試験】 正答率60%以上						
15	定期試験問題をより深く理解し、誤文訂正ができる。						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	化粧品化学 II Physics and Chemistry for Beauty II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川名 修
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
学科・コース	美容師科			曜日・時間	火曜日 1~4限		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
民間企業で材料開発に携わり、化粧品にも精通した講師が講義を担当する。目的:美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目的を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。							
【授業を通じての到達目標】							
この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に用いられるのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという絶対的な命題のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を強く意識して授業に取り組んでいただきたい。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
化粧品化学(日本理美容教育センター)				随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自律的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	基礎化粧品・皮膚清浄用化粧品(教科書85~90ページ)						
2	化粧水・クリーム・乳液(教科書91~104ページ)					4点	
3	メイクアップ化粧品(教科書105~121ページ)						
4	頭皮毛髪用化粧品・シャンプー剤・ヘアリンス剤(教科書123~135ページ)					4点	
5	パーマ剤(教科書136~142ページ)						
6	ヘアカラー剤・育毛剤(教科書143~156ページ)						
7	中間テスト					20点	
8	芳香製品と特殊化粧品(教科書157~164ページ)						
9	国試対策演習①					4点	
10	国試対策演習②						
11	国試対策演習③					4点	
12	国試対策演習④						
13	国試対策演習⑤					4点	
14	期末テスト					60点	
15	期末試験の振り返り、総合演習						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	文化論 II Cultural Theory II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢幸子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	火曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格を受けた教員が美容文化論の講義をする。理容業・美容業の歴史を理解し、さらに髪型・化粧・服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知り、これからの時代のデザインを起こすヒントを得る。文化論は美容師国家試験科目であり意欲をもって取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
西洋のファッション文化史を、古代エジプト～現代2010年までを修得する。礼装の種類を覚える。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	第4章 1節古代エジプト 2節ギリシャ・ローマ 3節ゲルマン 第4節中世ヨーロッパ						2
2	第4章 5節近世(16世紀)6節近世Ⅱ(17世紀)7節近世Ⅲ(18世紀)						2
3	第4章 8節近代Ⅰ 9節近代Ⅱ 10節現代Ⅰ						2
4	第4章 11節現代Ⅱ 12節現代Ⅲ 13節現代Ⅳ						2
5	第4章 14節現代Ⅴ 15節現代Ⅵ 16節現代Ⅶ						2
6	第5章 礼装の種類						2
7	中間テスト第4章 第5章より10問						中間テスト20
8	中間テスト・回答・解説						1
9	全範囲 練習問題・回答・解説						1
10	全範囲 練習問題・回答・解説						1
11	全範囲 練習問題・回答・解説						1
12	全範囲 練習問題 回答・解説						1
13	全範囲 練習問題・回答・解説						1
14	定期試験 第1章～第6章までの国家試験レベルの問題60問						定期試験 60
15	定期試験の解説 振り返り						振り返り 2
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ-③ Technological theory Ⅲ-③	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	市川 てるみ
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	木曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師としてサロンワーク、スタジオワーク、コンテストの経験を経て、現在もフリーのヘアメイク、美容師として活動する教員が美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の現状を伝えながら美容技術についての知識を深めていく。							
【授業を通じての到達目標】							
美容技術理論Ⅰにおける各分野を理解できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論Ⅰの教科書、筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	序章、1章 作業姿勢、美容道具分野の概要						
2	2章 シャンプーイング分野の概要						
3	2章 シャンプーイング分野の概要						
4	3章 ヘアデザイン 美容とヘアデザイン、小テスト(1~3章)					小テスト 10点	
5	4章 カットイング 基礎理論と技術						
6	5章 パーマネントウェーブ理論と技術						
7	5章 パーマネントウェーブ薬剤						
8	中間テスト(1章~5章)					中間テスト 20点	
9	6章 ヘアセッティング①理論						
10	6章 ヘアセッティング②技術						
11	7章 ヘアカラーリング種類、概論						
12	7章 ヘアカラーリング技術、手順						
13	1~7章の復習						
14	確認問題、小テスト(1~7章)					小テスト 10点	
15	定期試験(1~7章)					定期試験 60点	
					【評価について】		
					●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点		
					●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)		
					●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。		

科目名 (英)	美容実習 国家試験課題 カット National exam preparation	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野・赤羽・張・市川・鷲尾
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	木・金曜日、1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目の受験に関する実務経験10年以上の教員が担当。 国家試験第一課題の合格基準作品を作るために、国家試験課題スタイルと審査基準を理解し、それを作成するための方法とカットする上で必要な体勢などの基本動作を習得できるようになる。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	タイム25分でチェックカットも含めカットする						1点
2	タイム23分でチェックカットも含めカットする						1点
3	タイム22分でチェックカットも含めカットする						1点
4	タイム21分でチェックカットも含めカットする						1点
5	タイム20分でチェックカットも含めカットする						1点
6	タイム20分で長さ・残り毛の減点の無い作品をカットする						1点
7	衛生も意識しながらのカットをする						20点
8	タイム20分でレイヤーのつながりの減点の無い作品をカットする						1点
9	タイム20分でヘムラインの減点の無い作品をカットする						1点
10	タイム20分内で1発切りCUT						1点
11	タイム19分内で1発切りCUT						2点
12	タイム19分内で1発切りCUT						2点
13	タイム19分内で1発切りCUT						2点
14	タイム18分内で1発切りCUT						60点
15	タイム18分内で1発切りCUT						2点
【特記事項】 中間テスト20点分、総合確認テスト60点分は模擬試験結果を反映する。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習 国試総合技術 Beauty Practice	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山下・赤羽・半沢・田丸
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期
						曜日・時間	水・金曜日、1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目の受験に関する実務経験10年以上の教員が担当。 国家試験第二課題の合格基準作品を作るために、国家試験課題スタイルと審査基準を理解し、それを作成するための方法や必要な体勢などの基本動作を習得できるようにする。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)						1点
2	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)						1点
3	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)						1点
4	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
5	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
6	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
7	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習						1点
8	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認						1点
9	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認						1点
10	模試振り返り 弱点強化						1点
11	次回模試に向けての練習						2点
12	次回模試に向けての練習						2点
13	模試振り返り 弱点強化						2点
14	次回模試に向けての練習						2点
15	次回模試に向けての練習						2点
【特記事項】 中間テスト20点分、総合確認テスト60点分は模擬試験結果を反映する。授業開催曜日により模試時期が異なるため、授業内容も前後する。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 III Professional seminar III	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	岩本・神谷・佐藤・尾崎・野村・大迫
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることができる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 社会貢献していくためのマナーを学び、それらを就職活動に生かすことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				地域清掃を行い、街の環境美化に対する気配り心配りを養う。			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	一般常識問題<マナー>、就職活動						
2	一般常識問題<マナー>、就職活動(1組清掃月間)						
3	一般常識問題<マナー>、就職活動(1組清掃月間)						
4	国家試験筆記問題【美容技術理論】						小テスト10点
5	一般常識問題<マナー>(2組清掃月間)						
6	卒業式準備(2組清掃月間)						
7	国家試験筆記問題【美容技術理論】						中間試験20点
8	一般常識問題<マナー>(3組清掃月間)						
9	一般常識問題<マナー>(3組清掃月間)						
10	卒業式準備						
11	国家試験筆記問題【美容技術理論】						小テスト10点
12	一般常識問題<マナー>(3組清掃月間)						
13	一般常識問題<マナー>(3組清掃月間)						
14	国家試験筆記問題【過去問】						定期試験60点
15	卒業式準備						
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術 IV Beuty Politekhнизм IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張・井坂・佐々木
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者 美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 国家試験課題強化授業							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
AW道具一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	オールウェーブ 1段目~左右ウェーブ						
2	4段目 5段目 リフトカール					2	
3	メイポールカール					2	
4	クロッキノールカール					2	
5	ウェーブ リッジの強化					2	
6	カールの強化					2	
7	全頭タイム25分					30	
8	全頭タイム25分					60	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容総合技術 IV Beuty Politekhнизм IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	安田 有香
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 基礎カラーリング							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	基礎カラー リタッチの施術を理論的に学ぶ						
2	基礎カラー リタッチ実践 ファッションカラー						
3	基礎カラー リタッチ実践 ファッションカラー						
4	基礎カラー リタッチ実践 グレイカラー						
5	基礎カラー リタッチ実践 グレイカラー						
6	基礎カラー リタッチ ブリーチ						10
7	基礎カラー リタッチ ブリーチ						30
8	基礎カラー リタッチ応用						60
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容総合技術 IV Beuty Politekhнизм IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	池田 文子
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	月曜日 1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現役美容師またはその技術に特化した知識がある美容師または美容関係者 美容師になる為の総合的な技術、知識を学び実践を通して身につけていく。 ブロー・ストレートアイロン技術							
【授業を通じての到達目標】							
美容師として即戦力となり現場で活躍できる技術、知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	ストレートブロー					2	
2	内巻きブロー					2	
3	前髪ブロー					2	
4	外はね、リバースブロー					2	
5	ショートブロー					2	
6	ストレートアイロンの使い方を知る						
7	ストレートアイロン施術(ウィッグ)					30	
8	ストレートアイロン施術(人頭)					60	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	必修 選択		必修	年次	2	担当教員	
	授業 形態		演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	月～金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師国家資格を有し、国家試験合格に向けて技術の向上を目的とした集中授業を行う。 また、低技術力者に対し技術力底上げを行う。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験合格水準までの技術力向上							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
カット道具一式 第2課題用実技試験道具一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	国家試験課題 第一課題カット						
2	国家試験課題 第一課題カット						
3	国家試験課題 第一課題カット						
4	国家試験課題 第一課題カット						
5	国家試験課題 第2課題						
6	国家試験課題 第2課題						
7	国家試験課題 第2課題						
8	国家試験課題 第2課題						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	国家試験対策講座 National exam preparation		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科・コース	美容師科		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
							曜日・時間	水、金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)								
美容師国家資格を有し、国家試験合格に向けて筆記試験知識レベルの向上を目的とした集中授業を行う。 また、低得点者に対し筆記試験知識レベルの力底上げを行う。								
【授業を通じての到達目標】								
国家試験合格水準までの筆記試験知識レベルの向上								
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】			
国家試験全科目の教科書								
回	授 業 概 要						テスト配点	
1	文化論							
2	関係法規							
3	運営管理							
4	保健							
5	保健							
6	衛生管理							
7	衛生管理							
8	香粧品							
9	香粧品							
10	美容技術理論							
11	美容技術理論							
12	美容技術理論							
13	美容技術理論							
14	模試テスト①						40	
15	模試テスト②						60	
【特記事項】					【評価について】			
					<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	国家試験対策講座 オールウェーブ National exam preparation	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢・飯野・鷲尾
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期
						曜日・時間	水・木1・2・3・4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験課題を長きに渡り指導する中で合格に導くノウハウを蓄積した教員が、実技第2課題であるオールウェーブセッティング技術を合格レベルに到達させる授業を行う。美容師への第一歩となる資格試験合格へ向け前期に習得した基礎にのっとりさらに完成度の高い作品をつくる。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験合格レベルの作品を全頭23分で仕上げる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	正しい構成の確認						4
2	ウェーブとリッジの完成度を高める						4
3	中央の分け取り線とカールの接続を覚える						4
4	カールの大きさとステム・おさまり・ピニングの強化						4
5	全頭のスピードアップ 15分に挑戦する						
6	6段目と7段目のおさまりとピニングの強化						4
7	中間テスト 学年全体でレベルチェック形式 国家試験採点し可否判定レベルを知る						20
8	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
9	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
10	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
11	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
12	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
13	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
14	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
15	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
【特記事項】 ●評価は、模擬試験の成績等も加味して総合判断する。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	国家試験対策講座 ワインディング National exam preparation	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張・山下・萩尾
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期
						曜日・時間	火・金曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンワーク継続、ブライダル、撮影の仕事を経て 基礎技術の大切さを知る。 国家試験合格の為に、現場で通用する技術を習得する。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験の規定に基づき20分で正確に仕上げる。衛生を覚える。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	姿勢と巻き方を確認する。全頭20分で仕上げる。						
2	構成の見直し。国試の規定を確認。全頭20分で仕上げる。						
3	姿勢と巻き方を確認。フォームの見直し。全頭20分で仕上げる。						
4	スピードアップ。全頭19分で仕上げる。						
5	必ずタイム内に仕上げる。全頭19分で仕上げる。						
6	国家試験の規定通りに仕上げる。全頭19分で仕上げる。						
7	衛生準備7分 全頭 19分で仕上げる。						
8	衛生準備7分 全頭19分で仕上げる。						
9	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
10	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
11	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの基礎復習)						
12	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
13	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
14	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
15	国家試験第2課題(ワインディング・オールウェーブの弱点強化)						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			